

1996年工作总结

1996年,是中日友好环境保护中心从基建转入运行的起步年。5月5日,中心落成典礼后,其重点工作由工程基本建设转向为环境管理服务。在国家环保局的领导下,在日本国际协力事业团的支持下,中日技术合作已经渡过了准备阶段,各领域的合作正在全面开展。

（一）基建工程进展顺利,落成典礼圆满完成

1.继日本无偿援助的建设工程完工之后,年初完成了道路、绿化及车库、围墙等建设任务。主体工程荣获“中国建筑工程鲁班奖”,11月份,中日双方对该工程进行了最终检查验收。

2.落成典礼庆典活动在日本专家组的参与下,热情接待了219名日本客人,庆典活动隆重热烈、圆满有序,得到中日双方的好评。

3.中方工程的专家招待所的建设,加快了施工进度,现已基本完工。

4.无偿资金C包工程验收,向国家提交了仪器设备验收完工报告及全套验收文件档案。

（二）抓机构订制度,保证技术合作正常开展

1.为了保证中日技术合作计划的执行,国家环境保护局在中心落成后,任命了中心领导班子成员,并在今年6月以环人[1996]648号文件批复了建立中心的组织机构的“三定”方案。特别是明确了中心对公害部、监测部的业务领导关系(资料3-1-1)

2.根据“三定”方案,聘任了中心各部、处室的干部,其中各部副主任6名,处室所负责人12名;

3.对原筹建办的职工和从政研中心、总站、环科院等单位调入中心的人员按照双向选择的原则进行了妥善安排。现在,中心的组织机构建立工作已基本完成(资料3-1-2)。

4.为使中心工作规范化、制度化,从9月份起开始拟订,现已出台中心工作规则、人事、外事、科研、财务、行政、物业等36项规章制度。

5.理顺财务管理体制,保证了中心起步工作的顺利进行。据统计,1996年局拨事业费116.24万元,财政部拨事业费150万元,局拨专项经费100万元,共计366.24万元(资料3-1-3)。

6.先后开启电话、电梯、空调、通风、供暖、消防等设备,动力系统正常运行。

7.交通班车、职工食堂、浴室、卫生所相继开业运营,方便了职工的后勤生活。

(三)积极开展科研,为环境管理服务

中心落成后,除政研部、开放实验室一批科研项目继续进行外,经过努力,一批新的科研项目已经立项。自1996年5月5日正式运行以来,共承担科研项目24个,项目总经费875万元人民币(含世行贷款项目92万美元)。具体如下:

(1)1996年新增科研项目6个,项目总经费365万元人民币,计划5年内陆续完成;

(2)1996年完成科研项目4个,项目总经费10.5万元;

(3)1996年实际转入中心科研项目经费62万元人民币,捐赠仪器13万美元,节余经费40万元人民币(资料3-1-4)。

此外,开放实验室还承担了全国废物进口登记管理工作,全年登记1千余件。

局下属的标准样品研究所在调试新设备的同时,于去年11月份完成各种液体标准样品40余批近8万件的配制生产任务。

(四)开展中日技术合作,加快开放步伐

1.保证中日技术合作计划的顺利进行

(1)中心落成前设有专任技术合作机构,落成后设置了国际合作处,作为中日技术合作办公室直接和日本专家组保持经常联系,协调技术合作中的各项事务。专家组到达后在各种手续的办理、携行器材的通关、办公条件的提供等方面,中心都给予了确保。

(2)加强专家组和中心各部间的联系和信息交流,特别通过促进公害部和监测部的组织落实,为技术合作的开展打下了基础。

(3)96年度计划派遣的进修生5名,国内手续已基本完成,将按期在今年3月末之前派往日本。

(4)96年度的器材申请计划,经与专家组协商,已通过国家环保局报国家科委,预计能按期完成。

(5)对信息部的计算机与地方信息中心的联网问题,与日本专家组取得了一致意见,即在派短期专家2名进行技术性调查的基础上,在97年度利用技术合作器材费用为信息部配置工作站系统。

(6)96年度提出了4名短期专家来华的邀请。其中2名为计算机专家。

(7)在专家组的积极配合下,46城市的“中日技术合作空气质量地面自动监测站运行管理研讨班”和“环境影视教材制作”项目已经得到了经费保证,正在准备实施。

2、其他国际合作工作

(1)与日本国立环境研究所合作研究黄沙气溶胶,与联合国大学合作研究农药残留物标准等项目,同日本联合开展了建立东亚酸雨研究网络的前期调研工作。

(2)在落成典礼期间,成功举办了“中日可持续发展与环境问题研讨会”,竹下登前首相在会上作了讲演。另外还成功举办了“中日环境教育研讨会”、“日本环境保护仪器技术展览会”;承办了“第五次东亚环境问题研讨会”、“第三次中日环境合作联委会”的会务工作。

(3)与上海环科院共同主办完成了中日“大气污染控制”第三次第二国研修任务,培训了50名环境管理人员。

(4)接待日本及其他国家外宾来访团组42个,500多人次。

附件一

关于中日友好环境保护中心与 环境监测部、公害防治部 关系问题的说明

中日友好环境保护中心是根据中日两国政府共同批准确定的建设项目,于一九九六年五月五日落成,并投入正式运行。国家环境保护局相当重视。在人力、财力、物力诸方面给予了相当大的投入,国家环境保护局环人[1996]648号文《关于中日友好环境保护中心“三定”方案的批复》中明确指出了中日友好环境保护中心(以下简称中日中心)的任务、职责及编制:

1. 中日中心是实施中国与日本国环境技术合作和开展国际交流的窗口;

2. 中日中心的主要任务第二项为:实施中日两国和其他国际环境技术合作项目;

3. 同意中日中心下设6个部:环境信息部、环境战略和政策研究部、环境技术交流与公共教育部、开放实验室、公害防治技术部、环境监测技术部;

4. 中日中心总编制为360人,含开放实验室50人,环境信息部50人,环境战略和政策研究部30人,环境技术交流与公共教育部30人,公害防治技术部50人(其编制划入中国环境科学研究院);

5. 内部机构设置问题:开放实验室、环境信息部、环境战略和政策研究部、环境技术交流与公共教育部内部机构设置由中日中心,公害防治技术部内部机构设置由中国环境科学院,环境监测技术部内部机构设置由中国环境监测总站根据局有关规定分别确定后报国家环境保护局备案。

在中日中心的《中日友好环境保护中心“三定”方案》

中,有关公害防治技术部与环境监测部的论述是:

公害防治技术部是组成中日中心的一个部,其行政关系隶属于中国环境科学研究院。

环境监测技术部是组成中日中心的一个部,由中国环境监测总站管理。

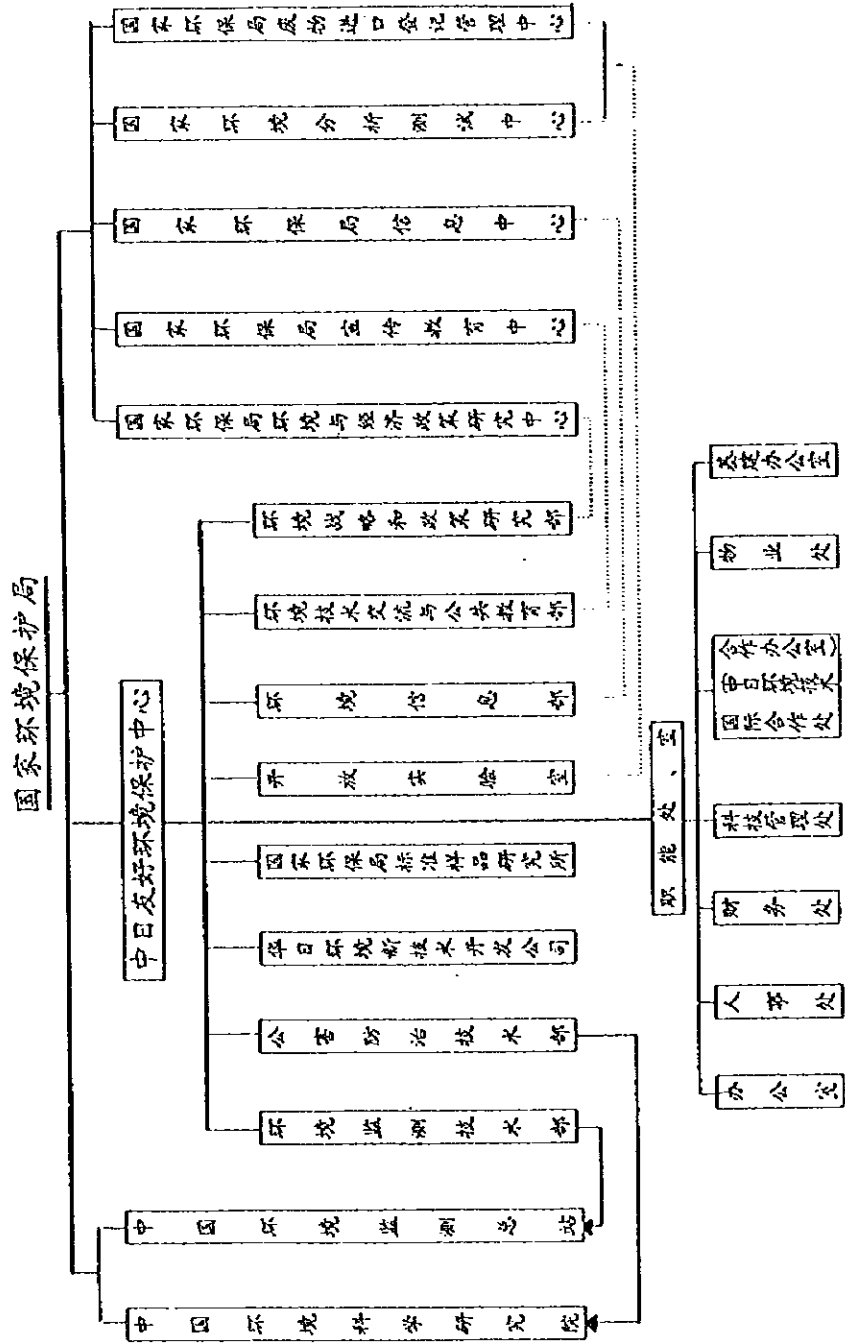
鉴于以上文件规定,中日中心既是实施中国和日本国环境技术合作的窗口,也归口管理环境监测技术部、公害防治技术部中有关中日环境合作的项目;同时,环境监测技术部、公害防治技术部有义务承担中日专项环境技术合作项目,也有义务完成中日专项环境技术合作任务。

中日友好环境保护中心、中国环境科学研究院、中国环境监测总站正是在上述阐明的关系中开展工作的。目前准备实施的由环境监测技术部和环境技术与公共教育部共同举办的环境监测技术培训班就是实例之一。

特此说明。

一九九七年一月五日

中日友好环境保护中心机构示意图



附件二

中日友好环境保护中心内部
机构及负责人明细表

1997.1

单 位	编制 人数	在编 人数	负责人姓名
领导成员	7	7	主任 张 坤 副主任 王桂民 程子峰 陈燕平 总工程师 全 浩 顾问 柴文琦 陈子久
一、环境信息部	50	6	主任 程子峰(兼)
1. 信息网络室	20		负责人 徐富春
2. 环境信息研究室	16		朱裕栋
3. 计算机系统管理室	10		
二、环境战略和政策研究部	30	19	副主任 曹凤中 夏 光
1. 环境政策研究室	9		负责人 任 勇
2. 环境经济研究室	9		胡 涛
3. 情报信息研究室	9		赵 峰
三、环境技术交流与公共教育部	30	7	副主任 焦志延 贾 峰
1. 宣传室	15		负责人 贾 峰(兼)
2. 教育室	7		焦志延(兼)
3. 音像室	5		屠式璠
四、开放实验室	50	19	主任 全 浩(兼)
			副主任 兰翊国 刘威德
1. 分析测试技术研究室	15		负责人 刘威德(兼)

单 位	编制 人数	在编 人数	负责人姓名
2.应用技术研究室	15		兰嗣国(兼)
3.区域环境研究室	10		黄业茹
4.废物进口登记管理中心	6	5	周北海
五、公害防治技术部	50	47	主 任 周泽兴 副主任 罗桂玲 岑运华
1.业务室	5	5	负责人 岑运华(兼)
2.固定污染源排气净化技术实验室	5	4	张 凡
3.汽车污染控制技术实验室	4	4	袁 昌
4.燃烧技术实验室	4	4	高金和
5.水处理技术实验室	5	5	周岳溪
6.水处理流程优化实验室	12	12	向连成
7.固体废弃物污染防治技术实验室	7	7	王 琪
8.化学品测试技术实验室	6	6	沈英娃
9.仪器分析室	2		
六、环境监测技术部		50	主 任 魏复盛 副主任 齐文启 滕恩江
1.水固体废弃物监测技术室		18	负责人 齐文启(兼) 付德黔
2.大气噪声监测技术室		15	王明霞 滕恩江(兼)
3.监测仪器质量监督室		10	易 泣
4.总工程师办公室		6	刘琨华 王瑞斌

单 位	编制人数	在编人数	负责人姓名
管理部门			
1. 办公室	6	5	副主任 石 轩 王玉芬
2. 人事处	5	3	副处长 刘国猛
3. 财务处	6	5	副处长 陈 杰 王 琪
4. 科技管理处	4	4	副处长 李 雷
5. 国际合作处	5	5	处 长 欧阳讷
6. 物业处	7	5	处 长 王占忠 副处长 殷 昀
7. 基建办公室	3	3	负责人 高保国
8. 党群组织	3	1	负责人 王运彩
标准样品研究所	25	16	所 长 刘延国 副所长 张大生
华日环境新技术开发公司			董 事 长 王桂民(兼) 总 经 理 程子峰(兼)
1. 物业工程公司		34	经 理 殷 昀(兼) 副经理 李持平
2. 环境工程公司		23	经 理 许全文

资料3-1-3

中日友好环境保护中心1996年财务支出情况

项 目	金 额	用 途
人员经费	266万元	用于人员经费、办公费等
专项经费	100万元	用于落成典礼
科研经费	122万元	用于科研课题开发、研究
社会服务	170万元	用于中心内部管理、运行
合计	658万元	

中日友好环境保护中心1997年度预算计划

项 目	金 额	预算依据
人员经费	260万元	财政部按国家预算提供
拟申请科研经费	500万元	国家科委等单位提供
社会服务	320万元	中心向社会提供服务所得
合计	730万元	

1997年1月8日

附件四

中日友好环境保护中心 1996 年科研项目表

序号	课题名称	承担单位	负责人	起止年月	经费(万元)
1	废水中酰胺类化合物的 HPLC 分析方法验证与标准化研究	开放实验室	李瑞琴	95.4 - 96.12	2
2	新型石墨炉原子化器开发和环境分析方法研究	开放实验室	马怡哉	95.6 - 96.12	3
3	改性聚乙烯材料生产中的有关特性研究	开放实验室	杨友明	94.7 - 97.6	5
4	标准样品研制项目	标准样品所	张大生等	94-97	1.5
5	环境标准样品研制和检测项目	标准样品所	祝兴祥	94-98	US\$ 35
6	中国生态农业发展政策的案例研究	政策研究部	曹凤中	93.6 - 95.12	US\$ 19
7	国家环保局环境与经济政策研究中心建设	政策研究部	曹凤中	95.1 - 97.6	US\$ 28
8	中国乡镇工业污染控制环境经济政策研究	政策研究部	夏光	94.10 - 96.12	US\$ 5.2
9	环境与发展综合决策的理论机制研究	政策研究部	夏光	95.9 - 96.12	4.7
10	可持续发展的环境经济学研究	政策研究部	胡涛	93-95	2
11	可持续发展的生态经济学分析:大丰县为例	政策研究部	胡涛	92-96	6
12	生态价值量化方法	政策研究部	李金昌	92-94	1.5
13	环境污染及其防治费用效益分析方法研究	政策研究部	李金昌	92-94	3
14	国内外环保科技发展水平比较	政策研究部	曹凤中	92-93	4
15	清洁生产政策研究	政策研究部	王汉臣	93-95	US\$ 4.5
16	酸性环境污染物对生态系统的污染和影响的生物地球化学研究	中日友好环境保护中心 日本环境厅国立环境所	全浩	94-98	
17	中国有毒有害化学品现状的调查	开放实验室 日本环境厅国立环境所	周北海	95-97	

中日友好环境保护中心 1996 年新增科研项目表

序号	课题名称	承担单位	负责人	起止年月	经费(万元)
1	干沉降测定方法	开放实验室	任剑琦	96.9 - 98.10	10
2	黄沙气溶胶(黄沙标准物质)	开放实验室	全浩	96-98	10
3	东亚地区环境监测与分析技术	开放实验室	黄业茹	96-99	US\$ 15
4	油类测定仪	标准样品所	刘廷国	96-98	2
5	中国环境污染损失的经济计算与研究	政策研究部	夏光	96-97	3
6	纳米材料光催化水处理技术研究和开发	开放实验室 中国科学院感光化学所	刘威德 (赵进才)	1996 - 2000	220

中日友好环境保护中心 1996 年完成科研项目表

序号	课题名称	承担单位	负责人	起止年月	经费(万元)
1	北京气溶胶的无机化学分析表征及其污染源和区域源贡献解析的研究	开放实验室	张颖	92.10 - 94.12	3
2	除油烟机研制	开放实验室	兰蔚国	96年	4
3	冀东油田油污事故调查监测	开放实验室	兰蔚国	96年	1.5
4	环境监测质量控制样品管理系统的研究	标准样品所	陈超伍	92-94	2

1996年度公害部科研与标准课题汇总

序号	课题名称	担当部门	负责人	起止时间	经费	进展情况
1	中国机动车排放污染控制研究	汽车污染控制技术实验室	袁盈	96. 3 - 97. 5	世贷 10万元	进行中
2	中国城市汽车行驶工况和污染物排放手段调查合作研究	汽车污染控制技术实验室	周泽兴	96. 3 - 97. 5	中日合作 1万元	进行中
3	分散型生活污水净化装置开发及应用研究	水处理流程优化技术实验室	荆一凤	96. 4 - 97. 6	中日合作 4万元	进行中
4	含氮代芳香族有机废水厌氧生物处理技术研究	水处理技术实验室	周岳溪	96. 3 - 98. 3	自然科学基金 4万元	进行中
5	北京市垃圾填埋产气监测及评价研究	固废实验室	于国泰	96. 12 - 97. 9	北京环保局 1万元	进行中

1996年度监测部科研与标准课题汇总

序号	课题名称	负责人	起止时间	总经费 (万元)
1	全国环境监测管理体制规范化研究	吴忠勇	9606-9706	5.0
2	大气中 SO ₂ 、NO _x 连续自动采样及分析方法的实用化开发研究	滕恩江	9606-9812	20.0 自筹 10.0
3	城市区域空气污染预报—沈阳市空气污染综合指数预报研究	万本太 孟 宏	9609-9712	10.0 自筹 5.0
4	应急监测技术研究	刘砚华	94/97	40
5	空气污染对儿童肺功能影响研究	魏复盛	94/97	128
6	空气有毒有机物采样分析方法	魏复盛	94/99	240
7	总量控制监测技术研究	魏复盛	96/98	100
8	环境监测技术规范(气和废气)	王明霞 滕恩江	9608-9808	4.0
9	空气 铍及其化合物的测定	滕恩江	9608-9806	3.0
10	空气 铅及化合物的测定	滕恩江	9608-9806	2.0
11	水质 总铍的测定	刘 京	9609-9709	2.0
12	水质 TOC 的测定	付德黔	9607-9805	2.0
13	土壤 Cr(VI)的测定	李国刚	9607-9707	2.0
14	水和废水监测技术规范	齐文启	95-97	6.0

经费合计: 564万元 (其中自筹15万元)

1996年業務まとめ（翻訳）

1996年は、中日友好環境保全センターが（「中日センター」と称する）基本建設段階より運営段階に移動し、起動操作を行われてきた一年である。1996年5月5日の開所式以来、中日センターの重点な業務は、基本建設の工事段階より環境保全に関する業務の管理に移動されてきた。国家環境保護局が指導し、日本国際協力事業団が協力した上で、中日技術協力は、すでに準備段階を渡し、各領域の協力が全面的に行っている。

一、基本建設工事の順調進行、開所式の円満終了

1. 日本無償資金で基本建設工事が完成した後、本年初構内の通路、緑化及び囲い工事等を終わらした。主体工事は、「中国建築工事の鲁班賞」を受賞した。11月、中日両側は該当工事に対して最終な検収を行った。
2. 開所式活動においては、日本専門家チームの参与する上で、219名日本人の客を熱情に招待した。開所式活動は、盛大熱烈であって、円満順調的なので、中日両側の好評を得た。
3. 中側工事における専門家ビルの施工は、工事のスピードを高め、現在、基本的に完成する段階である。
4. 無償資金におけるG工事の検収について、国に機器、機材の検収報告書及び全部検収に関する書類・案を提出した。

二、機構組織に力の注ぎ、組織規定の策定、技術協力業務の順番展開の保証

1. 中日技術協力プロジェクトの実施を確保するため、国家環境保護局は、中日センターの開所式が終わった後、中日センターの指導部メンバーを任命し、今年6月に、環人〔1996〕648号通達によって中日センターの組織機関の「三定」案を回答・指示した。特に中日センターの対公害防止技術部、観測技術部の業務上の指導の組織関係を明らかに確認した（附件1参照）。
2. 「三定」案によって、中日センターの各部（室）の責任者を任命された。その中、各部の副主任6名、処（室）の担当者12名がいる。
3. 元の基本建設事務所の職員及び政策研究中心、総站、環境科学研究院等の機関から転入してきた中日センターに対して、「両方選択」（二種類の仕事の中で自由に一つを選択する）原則による適応な配置を行った。現在、中日センターの組織機関の建設作業は、基本的に完成した（附件2参照）。

4. 中日センター業務の規範化、制度化をするために、9月より策定、現在中日センターの業務規定、人事、外事、科学研究、財務、行政、施設管理等の36項目の規定・制度を提出した。
5. 財務管理体制を整備し、中日センターの起動業務の順調的推進することを保証した。統計によると、1996年において、国家環境保護局が事業経費116.24万元特定経費100万元、財政部が事業経費150万元、合計366.24万元を得た。(附件3参照)
6. 相継いで電話、エレベーター、エアコン、通風、熱供給、消防等の施設運営を行い、動力系統は、運営正常である。
7. 通勤車両、職員食堂、浴室、衛生所等の運行が相継いで開始し、それぞれ職員の後方勤務の便利を提供した。

三. 科学研究の展開に積極的、環境管理に服務

中日センターは落成した後、政策研究部、開放実験室が若干の科学研究計画を行いつつ以外、努力の注ぎを通じて、若干新しい科学研究計画が打ち出した。1996年5月5日開所式以来、科学研究の24項目を担い、それらの項目総経費は、875万元人民幣である(世銀の貸出項目92万ドルを含む)。具体的な内容は、次の通りである。

1. 1996年新規科学研究項目6個、予算総額365万元人民幣で、5年以内完成の予定である。
2. 1996年科学研究項目4個を完了し、総額10.5万元を使用した。
3. 1996年において、中日センターに実際に科学研究項目の経費計62万元人民幣を調達し、献納機器の価値概算13万ドルであって、中日センターの各活動を経て、それぞれ合計した総経費の40万元人民幣を節約した。(附件4参照)

その他、開放実験室は、全国廃棄物質の輸入登録管理業務を担われて、1996年全部千件を登録した。

四. 中日技術協力の展開、開放歩調に急ぐ

1. 中日技術協力プロジェクトの順調的に推進の確保
 - a. 中日センター落成する前に特定技術協力機関を設置してあった。落成した後に国際合作処を設置し、中日技術協力の事務室として、直接的日本専門家チームとの日常連絡を行い、中日技術協力中の各業務を協調したものである。日本専門家チーム成員

は、到着後の滞在の各種な手続きの済み、携行機材の通関、業務を行う便宜の提供等の面に、中日センターがそれらを確保した。

- b. 日本専門家チームと中日センター各部との間の業務連絡及び情報交流を強化し、特に公害部と観測部の組織確実を通じて、技術協力の展開する基礎を構築した。
- c. 96年度計画による研修生5名の派遣であって、国内部分の出国手続きがすでに済み、今年3月末の前に、予定通り日本に派遣する。
- d. 96年度の機材申請計画については、日本専門家チームとの相談を経て、国家環境保護局の承認を得て、国家科学委員会に申請・報告する段階に入っており、予想通りに許可を得ると考えられる。
- e. 情報部のコンピュータと地方情報センターとのネットワークを構築することについては、日本専門家チームとの合意を得た。つまり、日本短期専門家2名を派遣して技術的な調査を行う上で、97年度の技術協力機材の経費を活用して、情報部のネットワークシステムを構築する。
- f. 96年度において、日本の短期専門家4名の進駐を懇請し、その中の2名はコンピュータ関係の専門家である。
- g. 日本専門家チームが積極的な協力を行った上で、46都市の「中日技術協力大気の大質的地上自動観測ステーションの運行管理検討クラス」と「環境に関する視聴覚教材作成」のプロジェクト経費を確保されて、実施する準備段階に入っている。

2. その他の国際協力業務

- a. 日本国立環境研究所と共同でエアロゾルのサンプリング及び観測方法の標準化の研究を行ったり、国連大学との共同で農業残留物質標準の研究等を行ったり、日本国との共同で東アジア酸性雨の研究ネットワークの構築を行ったりした。
- b. 開所式の期間において、成功的に「中日の持続的発展及び環境問題に関する検討会」を開催した。竹下元首相は、その会議において講演を行われた。その他、成功に「中日環境教育検討会」、「日本環境保全機器技術展覧会」を開催した。
第五次東アジア環境問題検討会」、「第三次中日環境協力連合委員会の会議」の開催業務を担った。
- c. 上海環境科学研究院との共催で、「中日大気汚染抑制」第三次第二国研修コースを開設し、50名の環境管理職員をトレーニングした。
- d. 日本及びその他の国の外資来訪団体42組500人回数を招待した。

附件1

中日友好環境保全センターと環境観測部、公害防止部との関係問題に関する説明について

中日友好環境保全センターは、中日両国政府の協議し、共同の許可を確定して建設したものであり、1996年5月5日に落成し、正式的な運営を行い始めた。国家環境保護局は非常に重視するものである。人力、財力、物力諸方面から相当に投入した。国家環境保護局は環人〔1996〕648号『中日友好環境保全センター「三定」案による回答指示』の通達の中には、中日友好環境保全センター（以下「中日センター」と称する）の任務、職責及び定員を明確した。

1. 中日センターは、中国と日本国の環境に関する技術協力及び国際交流を行う窓口である。
2. 中日センターの主要な任務第二条としては、中日両国及びその他の国際環境に関する技術協力の実施を行うことである。
3. 中日センターの下に6部の設置することに同意した。それは環境情報部、環境戦略及び政策研究部、環境技術交流及び広報教育部、開放実験室、公害防止技術部、環境観測技術部である。
4. 中日センターのそう定員は360名であり、開放実験室50名、環境情報部50名、環境戦略及び政策研究部30名、環境技術交流及び広報教育部30名、公害技術部50名（その編制は中国環境科学研究院に属する）である。
5. 内部機構の設置については、中日センターは、開放実験室、環境情報部、環境戦略及び政策研究部、環境技術交流及び広報教育部について、中国環境科学研究院は、公害防止技術部について、中国環境観測総站は、環境観測技術部について、それぞれの内部機構を確定した後、国家環境保護局に報告し、公簿に留めるようにする。

○中日センターの『中日友好環境保全センター「三定」案』の中で、公害防止技術部と環境観測部についての説明は、公害技術部は中日センターの組織構成の一部分であり、その行政関係は、中国環境科学研究院に属することである。

環境観測技術部は、中日センターの組織構成の一部分であり、中国環境観測総站により管理することである。

「以上の公文書に規定されて、中日センターは、中国と日本国の環境に関する技術協力を行う窓口であり、環境観測技術部と公害防止技術部の中日環境技術協力に関連する業務を管理するものである。環境観測技術部、公害防止技術部は、中日環境技術協力の特定項目を担う義務があると同時に、それを完成する義務もある。

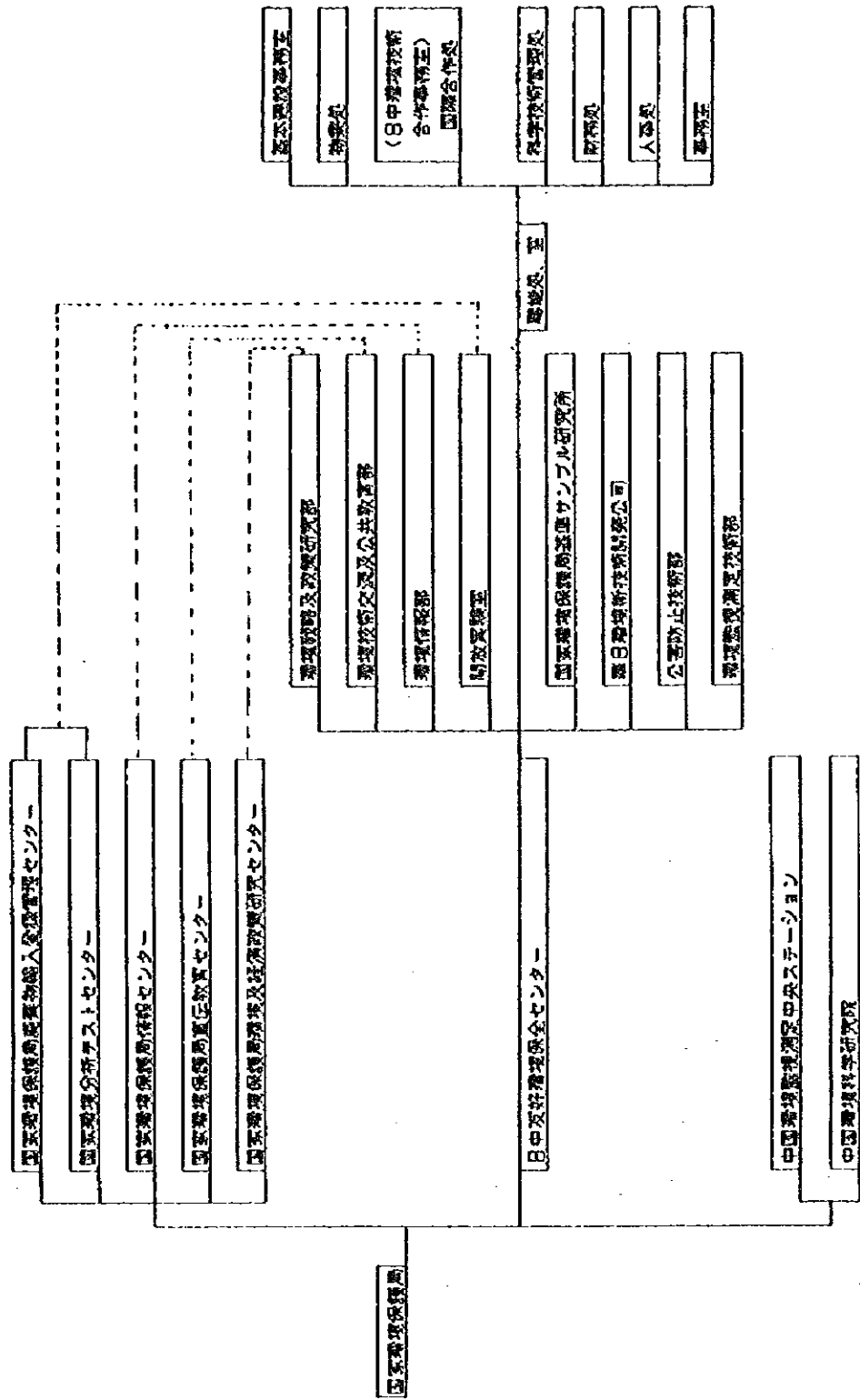
中日友好環境保全センター、中国環境科学研究院、中国環境観測総站は、上述した明確な関係で業務を行うことであつた。現在実施しようとする環境観測技術部と環境技術交流及び広報教育部との共同開設する環境観測技術養成コースは、その実例の一つである。」

1997年1月5日

付表4 中日センター1996年科学研究事業表

番号	事業名	担当機関	担当者	実施期間	経費
1	廃水中のフタレイン酸化エステル化合物HPLCの分析手法の検証及び標準化の研究				
2	新型グラファイトボイラ原子化機器の開発及び環境に関する分析手法				
3	ポリエチレンプラスチック生産中の関連特性の研究				
4	標準物質の研究、製造				
5	環境標準物質の研究、製造及び検定項目				
6	中国製体系農業の発展政策による事例の研究				
7	国家環境保護局環境及び経済政策研究センターの建設				
8	中国郷鎮企業による汚染抑制する環境経済政策の研究				
9	環境及び発展の総合的決着理論及びメカニズムの研究				
10	持続的発展に関する環境経済学研究				
11	持続的発展の生態系経済学の分析：大豊県の例				
12	生態系価値の計算手法				
13	環境汚染及びその防止費用効率の分析手法の研究				
14	国内外環境保全に関する科学技術発展レベルの比較				
15	清潔生産政策の研究				
16	酸性環境汚染物質による生態系に対する汚染及び影響の生物地球化学研究				
17	中国有毒有害科学物品の現状調査				

日中友好環境保全センター機構説明図



1996年観測技術部科学研究及び標準課題のまとめ

番号	事業名	担当機関	担当者	実施期間	経費
1	全国環境観測管理体制規範化の研究		呉忠勇	96.6～ 97.6	5 万元
2	大気中SO ₂ 、NO _x の連続的自動にサンプリング及び分析手法の実用化の開発研究			96.6～ 98.12	20 万元
3	都市区域大気汚染による予報－沈陽市大気汚染総合指標に係る予報の研究			96.9～ 97.12	10 万元
4	緊急観測技術の研究			94～97	40 万元
5	大気汚染による児童肺機能に対する影響			94～97	128 万元
6	大気・騒音観測技術室有毒有機物質のサンプリング及び分析手法			94～99	240 万元
7	総量規制観測技術の研究			96～98	100 万元
8	環境観測技術規範（気体及び排出ガス）			96.8～ 98.8	4 万元
9	大気、ベリリウム及び化合物の検定			96.8～ 98.6	3 万元
10	大気、鉛素及び化合物の検定			96.8～ 98.6	2 万元
11	水質、総ベリリウムの検定			96.9～ 97.9	2 万元
12	水質、TOCの検定			96.7～ 98.5	2 万元
13	土壌、Cr(VI)の検定			96.7～ 97.7	2 万元
14	水質及び排水観測技術規範			95～97	6 万元

中日センター1996年新規科学研究事業表

番号	事業名	担当期間	担当者	実施期間	経費
1	酸性降下物の測定手法				
2	黄砂標準物質				
3	東アジア地区環境観測及び分析技術				
4	油類検定機器				
5	中国環境汚染による孫子の経済計量及び研究				
6	ナミ材料光触媒酸化処理技術の研究及び開発				

中日センター1996年完成した科学研究事業表

番号	事業名	担当期間	担当者	実施期間	経費
1	北京の黄砂標準物質の無機化学分析状況と区域源及び局部源による貢献解析の研究				
2	油掃除機の研究、製造				
3	河北東部積優勢三値による油お煎じ子の調査観測				
4	環境観測品質抑制標準物質管理システムの研究				

一九九七年技术合作工作要点

1997年是中日友好环境保护中心成立后的第二年,也是中日技术合作(第二阶段)的第二年,通过1996年中心落成后在组织机构建设,规章制度建立,工作计划的制定等一系列的充分准备和96年工作中取得的经验,中心已经由准备阶段全面过渡到发展阶段.中心的各项工作将得到全面开展,中日技术合作将在各个合作领域取得更大进展。为实现这一目的,计划重点完成以下工作:

1. 完善各部的组织机构,招收技术骨干

确定各部下属研究室的设置方案,聘任负责人,招收技术骨干。这项工作从1月25日开始实施,将通过公开招聘,统一考试、择优录取的原则,首先招收10-20名技术骨干。之后,在今年大学毕业生中,在接收一批专业技术人员。

2. 加强科研工作的立项和结项

发动科研人员通过调查研究,开发新的研究课题,建立科研课题库,做好立项申请准备,同时,要加强对项目检查、保证项目能按计划、进度、质量要求进行评审验收。

1997年拟申报的科研项目共35项,项目经费共585万元人民币(资料4-1-1)。此外,拟与日本专家组合作开展的项目15个(资料4-1-2)

3. 加大中日环境技术合作的力度

在1997年度,除按技术合作协议(R/D)所规定的计划,积极配合日本专家组的工作,完成进修生的派遣,技术合作援助器材计划的申报和通关、验收和提出短期专家的邀请

计划外,着重要尽快建成信息部的计算机工作站,为解决与地方环境信息中心的联网问题打好物质基础。

同时,通过各部与日本专家组的紧密配合,要根据实际需要不断总结经验,充实 97 年度的中日技术合作计划,使之能取得更大的实际效果。

4. 解决信息部计算机系统与地方信息中心的联网问题

这一问题是国家环境保护局对中日中心信息部 97 年度工作的一项具体要求。为此,我们将这项工作列为 97 年度中日中心技术合作工作的重中之重。通过 96 年度世界银行,国家环境保护局,中日中心和专家组联席会议的形成的意向,将在短期专家实地调查的基础上,由 97 年度的技术合作器材援助提供计算机工作系统,以从技术上解决信息部与地方信息中心的联网问题。我们希望这一工作能加速进行,确保在 97 年度解决联网问题。

5. 打开公共教育部的新局面

为落实第二次全国宣教工作会议精神,公共教育部将作为国家环境保护宣传教育中心,从环境技术培训,公众环境教育和利用影视技术的环境教育三个方面,在日本专家组的合作下,全面开展工作,完成与日本专家组的合作培训计划。办好第四期中日合作大气污染防治第二国研修班和国家环境保护局下达的各项宣传培训任务。

6. 加强开放实验室的技术合作

开放实验室是中心六个部中的一个重要组成部分,具有良好的装备条件和技术力量。作为国家环境分析测试中心是进行环境科研,开发的重要场所,也是最有条件开展国际环境合作的基地。因为,97 年度将加强开放实验室的中日技术合作。鉴于开放实验室和标样所现在没有日本长期专家,计划通过邀请短期专家的方式,对一些研究课题进行

合作研究。

7. 举办国际性的研讨会

计划在 97 年度,以环境政策研究部为主,组织举办《可持续发展城市化问题国际研讨会》,邀请亚洲,太平洋地区的代表参加,通过对这一亚太地区国家共同感兴趣的问题进行学术交流,建立国际联系,争取更广泛的环境国际合作。

此外,为更有效地发挥中心的机能,扩大中日环境合作的成果,有两个初步设想,建议日方调查团考虑并向日本政府转达。

1. 中日友好环境保护中心作为国家环保局中日环境合作的窗口,可以在日本 ODA 的各项计划的立案、调查、评估等各项工作进行合作,发挥作用。

2. 实施为提高中日友好环境保护中心技术能力的第二国研修,为全面提高中心在环境经济政策研究、环境监测技术、公害防治技术、环境信息管理、环境分析测试技术等方面的技术能力,以提高中心技术人员的技术水平为主要目的,同时也招收其他环境科研机构的技术人员,聘请中日专家为讲师开展第二国研修活动。

资料4-1-1

中日友好环境保护中心1997年科技发展计划项目表

序号	项 目 名 称	承 担 单 位	负 责 人	起 止 年 限	项目经费(万元)
1	中国酸雨监测网络技术指南的研究	中日友好环保中心	全 浩	1997.4-2000.10	5
2	矿井水治理技术研究	中日友好环保中心	李 雷	1997.7-1999.9	12
3	我国在环保领域跨世纪国际科技合作的基与对策	政策研究部	曹凤中	1996.7-1997.12	5
4	可持续发展城市环境经济政策研究:以张季港为案例	政策研究部	曹凤中	1997.4-2000.4	05
5	中国环境外交战略研究	政策研究部	赵 峰	1997.4-1998.10	8
6	市场经济转轨时期环保投资渠道的研究	政策研究部	王王振	1997.5-1998.6	6
7	推动经济增长方式转变的环境政策手段研究	政策研究部	任 勇	1997.1-1998.7	11.6
8	关、停、取缔“15”小后续政策研究	政策研究部	孙炳彦	1997.4-1998.4	6
9	“接发菜”的社会经济背景分析及对策研究	政策研究部	胡 涛	1997.4-1998.4	3
10	中国城市可持续发展环境指标体系的研究	政策研究部	冯东方	1997.1-1998.7	3
11	工业排放污水中氟化物在线连续自动监测仪的研制	开放实验室	兰刚国	1997.3-1999.12	30
12	揭示污染历史的环境记录: 湖泊底泥中铅及其同位素丰度的测试技术研究	开放实验室	刘成德	1997.6-1999.6	11
13	环境专用质谱库的建立与研究	开放实验室	周春玉	1997.3-1998.10	4
14	进出口货物总量控制数据库的开发与研究	开放实验室	周北海	1997.1-1998.1	10
15	苦丁茶资源的开发利用研究	开放实验室	黄业磊	1997.3-1999.12	15
16	激光遥感技术识别水体污染物的应用研究	开放实验室	任剑章	1997.3-1999.12	30
17	生活燃煤、炉污染治理技术的研究	开放实验室	施钧惠	1997.3-1999.6	20
18	垃圾焚烧环境质量管理体系研究	开放实验室	兰刚国	1997.1-1998.12	30
19	空气中二氧化硫、氮氧化物、一氧化碳和丙烷气体标准样品的研究和制备	标准样品研究所	吴忠祥	1997.1-2000.12	20
20	空气中苯系物气体标准样品的研制	标准样品研究所	彭鸿俊	1997.1-2000.12	8
21	城市颗粒物成份研究及标样制备	标准样品研究所	张敬芬	1997.1-2000.12	15
22	污泥环境标准样品的研制	标准样品研究所	邱 争	1997.1-1999.12	8
23	淡水鱼肉组织环境标准样品的研制	标准样品研究所	田 文	1997.4-2000.4	15
24	玉米物质成份研究及标准样品制备	标准样品研究所	刘廷国	1997.1-1998.12	8
25	水中三硝基化合物、乙醇、二氧化硫标准样品的研制	标准样品研究所	邢书才	1997.5-1998.12	5
26	丙烷、丙烷醇标准样品的研制	标准样品研究所	封厥鹏	1997.7-1999.12	4
27	全国环境信息系统规划初步设想	环境信息部	程子峰	1997.1-1999.1	3
28	印染废水处理技术研究	公害防治部			50
29	饮用水源地环境综合管理技术研究	公害防治部			15
30	汽车排气污染催化净化技术研究	公害防治部			25
31	循环催化燃烧废气脱硝技术研究	公害防治部			50
32	水、气污染物排放与环境质量的相关关系研究	环境监测部			15
33	酸沉降的形成机制与迁移规律研究	环境监测部			25
34	汽车尾气的污染现状与防治对策研究	环境监测部			25
35	生物采样调查与评估方法研究	环境监测部			20
				小 计	585

资料4-1-2

中日友好环境保护中心1997年技术合作项目表

序号	项目名称	承担单位	负责人	起止年限	备注
1	HCGO计算机系统和地方环境信息中心的联网项目	信息部	程子峰	1997	
2	利用季风-沙漠-黄沙系统对地球环境变迁的预测研究	开放实验室	任剑璋	1997-2000	
3	环境分析测定的精密度管理体系的建立	开放实验室、监测部	全浩 兰明国	1997-1998	
4	环境专用质谱库的建立与研究	开放实验室	周春玉	1997-1998	
5	中国环境政策比较研究	政研部	曹凤中	1997-1998	
6	汽车排气浓度测定技术研修班	公害部、宣教部		1997.10	
7	总量控制制度研修班	监测部、宣教部		1997.9	
8	地方环保宣教人员的影视技术研修班	宣教部		1997.8	
9	城市街道汽车走行工况调查	公害部		1997.7,11	
10	酸雨监测示范计划的支援项目	开放实验室、监测部		1997	
11	全国环境监测网络精密度管理的支援项目	监测部		1997.5,10	
12	中文教科书(影视技术)编写	宣教部		1997.4-7	
13	环境宣传教育录像教材制作	宣教部		97.4-98.3	
14	中日友好环境保护中心简介编制	宣教部		1997.5-9	
15	中日中心技术人员业务培训(日语、计算机)	宣教部		1997	

1997年技術協力に関する業務ポイント（翻訳）

1997年は、中日友好保全センターの成り立つ後の第二年目であって、中日技術協力プロジェクトフェーズIIの第二年目である。1996年の中日センター開所式後の組織機構の建設、規定制度の打ち立て、業務計画策定等の一連の十分な準備及び96年の業務作業による得た経験を通して、中日センターは、すでに準備段階より全面的に業務の展開する段階に渡し込んできた。中日センターの各業務は、全面的展開を行うことである。中日技術協力は、各個の協力領域で更に前進を得ると予想される。この目的を果たすために、計画ポイントとしての以下の業務を行う。

1. 各部の組織機構の完備、技術エリート職員のリクルート

各部に属する研究室の設置案を確定し、担当者を任命し、技術エリート職員をリクルートする。この業務は、1月25日から実施開始を計画し、公開的なリクルートを行い、統一試験を行う上で、成績の優秀なものを採用する原則によって、先端に10～20名の技術職員を吸収する。その後、今年度の大学卒業生の中から、若干の専門技術人員を採用する。

2. 科学研究業務の計画及び完成の強化

科学研究職員を動かして調査・検討活動を通じて、新たな研究課題を開発し、科学研究ベースを構築する。研究計画の申請準備を適時に行い、その同時に、行い始めた研究課題に対して研究課題による活動の検査を強化し、研究課題による研究予定、研究過程、研究結果の要求のように評価、審査、検収を行う。

1997年におい手35科学研究項目の申請を行う予定であって、予算総額585万元人民幣である（資料4-1-1参照）。その他、日本専門家チームとの協力計画15項目を行い予定である（資料4-1-2参照）。

3. 中日環境技術協力促進の強化

1997年において、技術協力協議（R/D）による協議された業務を行う以外、積極的に日本専門家チームの業務を配合し、研修員の派遣、技術協力による援助機材の申告及び通関、検収と短期専門家の要請提出を完成させる。情報部のコンピュータワークステーションを速やかに構築させ、地方環境情報センターとのネットワーク問題の解決するために良好的な物質基礎を構築する。

その同時に、各部と日本専門家チームとの緊密な配合することを通して、現実的

な需要によって、絶えずに業務経験をとりまとめ、97年度の中日技術協力プロジェクトを充実させ、更に大きな効果を得らせる。

4. 情報部コンピュータシステムと地方情報センターとのオンライン問題の解決

この問題の解決は、国家環境保護局対中日センター情報部97年度業務の一つの具体的な要求であるため、我々は、この業務を97年度の中日センターの技術協力業務の中の重点一位置付けた。96年の世界銀行、国家環境保護局、中日センターと日本専門家チームとの同席会議による達成した合意を通して、短期専門家が現地調査を行う上で、97年度の技術協力援助機材により、コンピュータシステムを提供させ、技術的な面から情報部と地方情報センターとのオンライン問題を解決する。我々は、この業務の速やかに行い、97年内にそれを済むことが期待している。

5. 公共教育部の新しい姿勢の構築

第二次全国宣伝教育業務会議の精神を確実にするため公共教育部は、国家環境保護局宣伝教育センターとして、環境に関する技術養成、公衆環境教育及び視聴覚技術を利用することによる環境教育を行う三つの面から、日本専門家チームの協力する上で、全面的に業務を行い、日本専門家チームと共同での人材養成計画を完成させる。第四期中日協力大気汚染防止第二国研修コース及び国家環境保護局が依頼による各宣伝、人員養成業務を順調に生かせる。

6. 開放実験室の技術協力の強化

開放実験室は、中日センター6部の中、重要な構成の一部であり、良好な施設整備条件及び技術力を有する。国家環境分析測定センターとしては、環境に関する科学研究、開発する重要な場所であり、国際環境協力の展開する条件が最優する基地である。97年において、開放実験室が中日技術協力業務を強化し、開放実験室と標準物質室に長期日本専門家がいなかったため、短期専門家の要請する形による計画を通して、若干研究課題に対して協力研究を行う。

7. 国際的検討会議の開催

97年において、環境政策研究部を始め、「持続的発展の可能な都市化問題国際検討会議」の開催を行い、アジア、太平洋地区の国の代表の出席を招待する。アジア・太平洋地区の国の共同関心を注ぐこの問題に関する学術交流を通じて、国際的連携を構築し、更に広い範囲の環境国際協力を促進する。

その他、中日センターの昨日をもっと有効的に果たすために、中日環境協力の効果

を広め、初歩的予想が二つあるので、日側の調査団の考慮及び日本政府への伝達を願います。

1. 中日友好環境保全センターは、国家環境保護局の中日環境協力の窓口として、日本のODAの各計画の策定、調査、評価等の各業務に対する協力を行われ、役割を果たすことが期待できる。
2. 中日友好環境保全センター技術能力の向上する第二国研修を実施するため、全面的に中日センターの環境経済政策研究、環境観測技術、公害防止技術、環境に関する情報管理、環境に関する分析測定技術等の面の技術能力を向上し、中日センター技術者の技術レベルの向上することを目的とし、同時にその他の環境科学研究期間の技術人員を集め、中日専門家を講師にし、第二国研修活動を行う。

資料4-1-1 (1/3) 中日センター1997年科学技術発展計画表

番号	事業名	担当機関	担当者	実施期間	経費
1	中国酸性雨観測ネットワーク技術ガイドの研究	中日センター	全 浩	1997.4～ 2000.10	5 万元
2	鉱井酸性水処理技術研究	中日センター	李 雷	1997.7～ 1999.9	12 万元
3	わが国の環境保全領域において世紀を渡す国際科学技術協力の戦略及び対策	政策研究室	曹凤中	1996.7～ 1997.12	5 万元
4	持続的可能な発展な都市環境経済政策の研究。張家港の例	政策研究室	曹凤中	1997.4～ 2000.4	65 万元
5	中国環境外交戦略の研究	政策研究室	趙 峰	1997.4 1998.10	8 万元
6	市場経済に転換期間における環境保全への投資ルート	政策研究室	王玉振	1997.5～ 1998.6	6 万元
7	経済成長方式転換を促進する環境政策、手段	政策研究室	任 勇	1997.1～ 1998.7	11.6 万元
8	閉鎖、停止、取り締まられた「15小」(15種類中小企業)後の持続政策の研究	政策研究室	孫丙彦	1997.4～ 1998.4	6 万元
9	「筍発菜」(野菜の一種類)の社会経済背景の分析及び対策	政策研究室	胡 涛	1997.4～ 1998.4	3 万元
10	中国都市の持続的発展の可能な環境指標体系	政策研究室	馮東方	1997.1～ 1998.7	3 万元
11	工業排出汚水中のシアン在線連続自動観測機器の研究・製造	開放実験室	兰嗣国	1997.3 1999.12	30 万元
12	環境汚染歴史の記録の揭示：湖沼底の汚泥中の鉛素及び鉛素同族元素の濃度測定	開放実験室	劉咸徳	1997.6 1999.6	11 万元
13	環境Mass Spectrometerデータベースの構築及び研究	開放実験室	周春玉	1997.3 1998.10	4 万元

番号	事業名	担当機関	担当者	実施期間	経費
14	輸入廃棄物質の総量規制データベースの開発及び研究	開放実験室	周北海	1997.1~ 1998.1	10 万元
15	「苦丁茶」(茶の種類)に関する資源の開発・利用及び研究	開放実験室	黄業茹	1997.3~ 1999.12	15 万元
16	高効率光譜機器のリモコン技術より水質形態汚染物質の識別の応用研究	開放実験室	任劍章	1997.3~ 1999.12	30 万元
17	生活石炭焼却、排出ガスのフッ素、ヒ素による汚染処理技術の研究	開放実験室	施鈞惠	1997.3~ 1999.6	20 万元
18	ごみ焼却に関する環境の質的管理体系の研究	開放実験室	兰嗣国	1997.1~ 1998.12	30 万元
19	窒素気体中の二酸化硫黄、窒素酸化物、一酸化炭素及びプロパンの標準物質の研究、製造	標準物質研究室	呉忠祥	1997.1~ 2000.12	20 万元
20	窒素気体中のベンゼン類物質の気体標準物質の製造	標準物質研究室	彭鴻俊	1997.1~	8 万元
21	都市浮遊粒子状物質の成分研究及び標準物質の製造	標準物質研究室	張効蘇	1997.1~ 2000.12	15 万元
22	汚泥環境標準物質の研究、製造	標準物質研究室	邱 争	1997.1~ 1999.12	8 万元
23	淡水の魚の肉の内部構造の標準物質の研究、製造	標準物質研究室	田 文	1997.4~ 2000.4	15 万元
24	スイートコン物質成分の研究及び標準物質の製造	標準物質研究室	劉延国	1997.1~ 1998.12	8 万元
25	水質中の三ニトロ基酸化物質、アセトアルデヒド、二酸化炭素標準物質	標準物質研究室	彤書才	1997.5~ 1998.12	5 万元

番号	事業名	担当機関	担当者	実施期間	経費
26	アクリロニトリル、アクリルアルデヒドの標準物質	標準物質研究室	封躍鵬	1997.7~ 1999.12	4 万元
27	全国環境情報システム企画の初歩的な予想	環境情報部	程子峰	1997.1~ 1999.1	3 万元
28	印刷、染料による排水処理技術	公害防止部			5 万元
29	飲用水源地の環境総合管理技術	公害防止部			15 万元
30	自動車排ガスによる汚染の光触媒酸化浄化処理技術	公害防止部			25 万元
31	循環流動床排ガスによる脱硫技術の研究	公害防止部			51 万元
32	水質、気体汚染物質の排出及び環境の質的相互関係	観測技術部			15 万元
33	酸性降下物の形成メカニズム及び輸送メカニズム	観測技術部			25 万元
34	自動車排出ガスによる汚染現状及び対策の研究	観測技術部			25 万元
35	生物多様性の調査及び評価方法の研究	観測技術部			25 万元

資料4-1-2 (1/1) 中日友好環境保全センター1997年国際協力事業表

番号	事業名	担当機関	担当者	実施期間	経費
1	季節風-砂漠-黄砂システム を利用し、地球環境の変換予 測研究を行う。	開放実験室			
2	環境分析測定による精度管理 体系の構築				
3	環境専用測定データベースの 構築及び研究				
4	環境保全領域において国際科 学技術協力対策の研究				
5	自動車排ガスによる濃度測定 技術研究コース				
6	総量規制制度の研究コース				
7	地方環境保全に係る宣伝教育 職員の視聴覚技術研究コース				
8	都市道路の自動車走行現状の 調査				
9	酸性雨観測モデル計画の策定				
10	工場企業の環境観測による精 密度管理				
11	中国語教材（視聴覚技術 関係）編成				
12	環境宣伝教育ビデオ教材の作 作成				
13	中日センターに関する簡易 読み物の編成				
14	中日センター技術職員養成 （日本語、コンピュータ）				

5. 中国側実施体制について（専門家チーム作成資料）

中国側の実施体制について

(1) 各部の業務・機構定員・予算に関する権限の所在について

① 狭義の日中友好環境保全センターの組織

狭義の意味での日中友好環境保全センターの各組織、つまり、環境情報部、環境技術交流・公共教育部、環境戦略政策研究部、開放実験室、事務管理部門の7処・室、標準物質研究所及び国家環境保護局廃棄物輸入登録管理中心（暫定機関）に関しては、次のとおり、張坤主任が、これらの組織の機構・定員・所掌業務（いわゆる三定）に関する権限を有している。

- 日中友好環境保全センターが作成した「1996年6月6日付け中日友好環境保全センター三定案に関する伺い（中日環〔1996〕016）」及び国家環境保護局の「1996年8月1日付けの日中友好環境保全センターの三定案に対する回答指示」、その他、センター幹部のこれまでの説明からして、環境情報部、環境戦略政策研究部、環境技術交流・公共教育部、開放実験室、事務管理部門の7処・室、標準物質研究所、国家環境保護局廃棄物輸入登録管理中心（暫定機関）の機構・定員・所掌業務については、張坤主任が、原案を策定し、国家環境保護局の認可を受ける立場にある。
- 人事権に関しては、これらの各部室の主任（部長）以上のクラスの任命権は、国家環境保護局の権限であり、それ以下の職員の任命権は、張坤主任が掌握している。
- 予算については、三定において何等規定されているものではないが、10月末に張坤主任をはじめ、公害防止技術部及び環境監測技術部を含む関係部（室）の部長クラスを集めて、1997年事業に関する協議を行っていること、また、これまでのセンター幹部の説明からして、張坤主任が、狭義の意味での日中友好環境保全センターの各組織の予算権限を確保していると見て間違いないと思える。

② 環境監測技術部（中国環境監測總站）

- 日中友好環境保全センターが作成した「1996年6月6日付け中日友好環境保全センター三定案に関する伺い（中日環〔1996〕016）」によれば、“環境監測技術部は、中日センターを構成する1つの部であり、中国環境監測總站が管理する。その所掌事務は、中国環境監測總站三定案に対する回答指示を参照のこと”と記載されている。
- 一方、1996年3月26日付けで、国家環境保護局から中国環境監測總站に対して、「中国環境監測センターの三定調整案に対する回答指示」が出されているが、この回答指示では、中国環境監測總站と中日友好環境保全センターの環境監測技術部との関係は規定されていない（日中友好環境保全センターが、關所していない時点であるから、当然とも言える）。

- 国家環境保護局の「1996年8月1日付けの中日友好環境保全センターの三定案に対する回答指示」では、“中国環境監測總站は環境監測技術部の内部機関について、国家環境保護局の関係規定に基づいて確定した後、国家環境保護局に報告し、公簿に留めるようにする”と規定している。しかしながら、中国環境監測總站は、未だに、環境監測技術部の内部機構を定めていないものと予想される。
 - 以上のことから、日中友好環境保全センターの張坤主任は、環境監測技術部の機構・定員・所掌業務の原案を策定する権限はあり、国家環境保護局の認可を受ける立場にある。しかしながら、その内部機関を定める権限は有していなく、また、その延長線上として、当該部に関する職員の人事権も有していない。これらの権限は、中国環境監測總站が掌握している。なお、人事権のうち、環境監測技術部の主任（部長）の任命権については、中国環境監測總站にはなく、国家環境保護局が掌握している。
 - なお、中国環境監測總站の魏復盛副主任は、口頭で、「監測總站の3つの技術系の研究室が、環境監測技術部を構成する」と表明している。
 - 従って、張坤主任は、中国環境監測總站に対して、「早急に、環境監測技術部の内部機構を定め、所要の職員を配置してくれ」と要請することしかできないものと思われる。
 - 予算については、以上のどの三定においても何等規定されているものではないが、10月末に張坤主任をはじめ、公害防止技術部及び環境監測技術部を含む関係部（室）の部長クラスを集めて、1997年事業に関する協議を行っていることからして、張坤主任が、環境監測技術部の予算について影響力を持ちはじめようとしているものと予想される（ただし、予算の内、環境監測技術部に配属予定の職員分に係る人件費及び基本経費（1万円/人）については、環境監測總站の職員であるので、環境監測總站に計上されている。また、環境監測技術部として予算が計上されようとしている事業は、事実上、中国環境監測總站そのものの事業と全く同一である）。
- ③公害防止技術部（中国環境科学研究院）
- 日中友好環境保全センターが作成した「1996年6月6日付け中日友好環境保全センター三定案に関する伺い（中日環〔1996〕016）」によれば、“公害防止技術部は、中日センターを構成する1つの部であり、行政上は中国環境科学研究院に属する。”と記載されている。
 - 一方、国家環境保護局の「1996年8月1日付けの中日友好環境保全センターの三定案に対する回答指示」では、“中国環境科学研究院は公害防止技術部の内部機関について、国家環境保護局の関係規定に基づいて確定した後、国家環境保護局に報告し、公簿に留めるようにする”と規定している。この内部機関については、既に、環境科学研究院は原案を作成し、国家環境保護局に提出しているが、未だ、国家環境保護局は、その回答を提示していない。
 - 以上のことから、日中友好環境保全センターの張坤主任は、公害防止技術部の機構・定員・所掌業務の原案を策定する権限はあり、国家環境保護局の認可を受ける立場にある。しかしながら、その内部機関を定める権限は有していなく、また、その

延長線上として、当該部に関する職員の人事権も有していない。これらの権限は、中国環境科学研究院が掌握している。なお、人事権のうち、公害防止技術部の主任（部長）の任命権については、中国環境科学研究院にはなく、国家環境保護局が掌握している。

○従って、張坤主任は、中国環境科学研究院に対して、「早急に、公害防止技術部の内部機構を定め、所要の職員を配置してくれ」と要請することしかできないものと思われる。

○予算については、以上のどの三定においても何等規定されているものではないが、10月末に張坤主任をはじめ、公害防止技術部及び環境監測技術部を含む関係部（室）の部長クラスを集めて、1997年事業に関する協議を行っていることからして、張坤主任が、公害防止技術部の予算について影響力を持ちはじめようとしているものと予想される（ただし、予算の内、公害防止技術部に配属予定の職員分に係る人件費及び基本経費（1万元/人）については、中国環境科学研究院の職員であるので、中国環境科学研究院に計上されている）。

④ JICAプロジェクト技術協力について

張坤主任が、JICAプロジェクト技術協力に関する調整権限を掌握していることについては、中国環境監測總站及び中国環境科学研究院のいずれもが認めるところである。

⑤ まとめ

以上まとめると、つぎのようになる。

下表において、張坤主任が権限を掌握している場合は○（原案を作成する権限がある場合も含む）、影響力を持ちはじめようとしていると予想される場合は？、そして、権限がない場合は×で標記した。なお、○と×の部分は、既に、中国側の三定等により規定されているものであり、日本側が、中国側にその変更を要求することは難しいと思料する。

		我々の意味での日中 友好環境保全センター	環境監測技術部	公害防止技術部
三 定	機 構 員 定 所 掌 事 務	○（原案作成権） ○（ " ） ○（ " ）	○（張主任の原案作成 ○権はあるが、總站の ○三定に従っている）	○（原案作成権） ○（ " ） ○（ " ）
各部の 内部機構		○	×（總站の権限）	×（環科院の権限）
人 事	部 職 長 員	×（環保局の権限） ○	×（環保局の権限） ×（總站の権限）	×（環保局の権限） ×（環科院の権限）
予 算	人 件 費 等 事 業 費	○ ○	×（總站の権限） ？	×（環科院の権限） ？
プロジェクト 技術協力		○	○	○

6. 中日友好環境保全センター職員募集新聞広告

資料

日中友好環境保全センター職員募集新聞広告（97年1月14日付中国環境報）

中日友好環保中心招考啓事

中日友好環境保護中心是根據中國和日本國政府共同批准確定建設的國家重點環境保護項目，於1996年5月5日建成投入使用，是國家環境保護局直屬的全國環境保護政策研究、信息管理、分析測定、宣傳教育的綜合研究、管理執行機構，經國家環境保護局批准，中日友好環境保護中心招考專業技術人員10~20名。

一、招考對象和條件

1. 熱愛祖國，擁護中國共產黨的領導，堅持四項基本原則，堅持改革開放；2. 具有北京市戶口的國家機關、企事業單位在職專業技術人員；3. 具有環境工程、環境管理、環境經濟、環境法、化學分析、計算機及網絡、英語、影視、大氣物理等專業的大学本科以上學歷；4. 參加工作年限：博士學歷工作1年以上，碩士學歷工作2年以上，大學本科學歷工作5年以上。5. 年齡要求在25~45歲。

二、報名

考生請持戶口簿、工作證、學歷證明、專業技術職務證書、近期1寸免冠照片3張，於1997年1月25日到中日友好環境保護中心報名。

聯繫人：張華 徐衛東 電話：64947722-2503

地點：朝陽區北四環育慧南路1號（地鐵雍和宮站下車乘62路至終點往北小營路口往東三百米路南）

訳）中日友好環境保護センターは、中国と日本国の両国政府が共同に許可した国家の重点な環境保護プロジェクトであり、1996年5月5日に開所した。このセンターは、国家環境保護局に直属する全国の環境保護政策研究、情報管理、分析測定及び宣伝教育の総合・研究管理機構である。今般、国家環境保護局の許可により、中日友好環境保護センターは、専門技術職員10~20名を募集する。

一、募集対象及び条件

1. 国家を愛し、中国共産党の指導を支持し、四つの基本原則、改革開放を堅持する；
2. 北京市の戸籍を持つ国家機関、企業・事業体の在職専門技術者；
3. 環境工学、環境管理、環境経済、環境法、化学分析、コンピュータ及びネットワーク、英語、AV影像、大気物理等の大学専攻以上の学歴を持つ；
4. 在職期間：博士学歴は1年以上、修士学歴は2年以上、大学卒学歴は5年以上；
5. 年齢は25-45歳

二、申込み

応募者は戸籍証明、身分証明書、學歷証明書、専門技術証明書と最近の3cm四方無帽写真3枚とともに、1997年1月25日に中日友好環境保全センターに申し込んで下さい。

問い合わせ先：張華、徐衛東 電話：

場所：朝陽區北四環育慧南路1號（地下鉄雍和宮駅下車バス62線路終点まで下車、北小營路交差点まで東300m程南にある。）

7. 大気汚染自動測定研修コース実施要領

中日技術協力空気質量地上自動監視測定ステーション 運行管理検討グループ実施プラン

テ ー マ：空気質量地上自動監視測定ステーション運行管理検討グループ

日 時：1997年1月26日～1月30日

場 所：中日友好環境保全センター

宿 泊 先：桜花賓館

主催機関：中日友好環境保全センター

請負機関：中日友好環境保全センター技術交流及び公共教育部（国家環境保護局宣伝教育センター）

一、目的

国务院環境委員会及び国家環境保護局の要求に基づき、我が国の都市大気環境の現状を反映させて我が国の環境監視測定作業を国際的なものと結び付けるため、1997年に全国の重点都市において空気質量公告と汚染予報業務を逐次展開させる予定である。この業務が順調に行われることを促し、また併せて国家環境保護局の空気質量基準（GB3095-1996）の実施に結び付けるため、本計画を実施する。

二、研修内容

- 1、空気質量状況の週刊報告及び予報方法
- 2、自動監視測定ステーションの運行、管理及び維持と保護
- 3、空気質量基準（GB3095-96）の制定及び目下実施している中に存在する問題
- 4、大気監視測定技術路線
- 5、その他の関係する内容

三、参加人員

- 1、46の重点都市の環境保護局主管局長、監視測定ステーション所長（又は主管所長）及び技術人員1名の計138名
 - 2、国家環境保護局の主管指導者及び中央ステーションの関係技術人員10名
 - 3、講義を行う専門家8名
- 総計156名

四、研修グループの日程

1月26日		研修員到着
1月27日	9:00～9:15	開講式
	9:15～10:15	王揚祖副局長、陸新元副司長、魏復盛副所長の挨拶
	10:15～11:30	中国重点都市の空気質量週刊報告と予測予報実施プラン
	11:30～14:00	昼休み
	14:00～15:00	台湾地区の空気質量の現状と管理（梁照彦）
	15:00～15:30	休憩
	15:30～16:30	日本の大気汚染自動監視測定システム（井上）
1月28日	9:00～10:00	中国の大気監視測定技術路線（万本太）

	10:30~11:30	空気質量基準（GB3095-96）の制定及び目下実施している中に存在する問題（王明鏡）
	11:30~14:00	昼休み
	14:00~15:00	空気地上ステーションシステムの設計、運行及び管理 (梁熙彦)
	15:00~15:30	休憩
	15:30~16:30	瀋陽市の冬季SO ₂ 予測予報経験
1月29日	9:00~10:00	環境質量コミュニケ（総合室）
	10:00~10:30	休憩
	10:30~11:30	煙塵、煙、SO ₂ 排出総量監視測定技術（魏復路）
	11:30~14:00	昼休み
	14:00~16:30	討論
1月30日	午前	北京市空気自動監視測定システムの参観
	11:30~14:00	昼休み
	午後	中日センターの参観
1月31日	離京	

46 都市空気地上自動監視測定ステーション討論会名簿

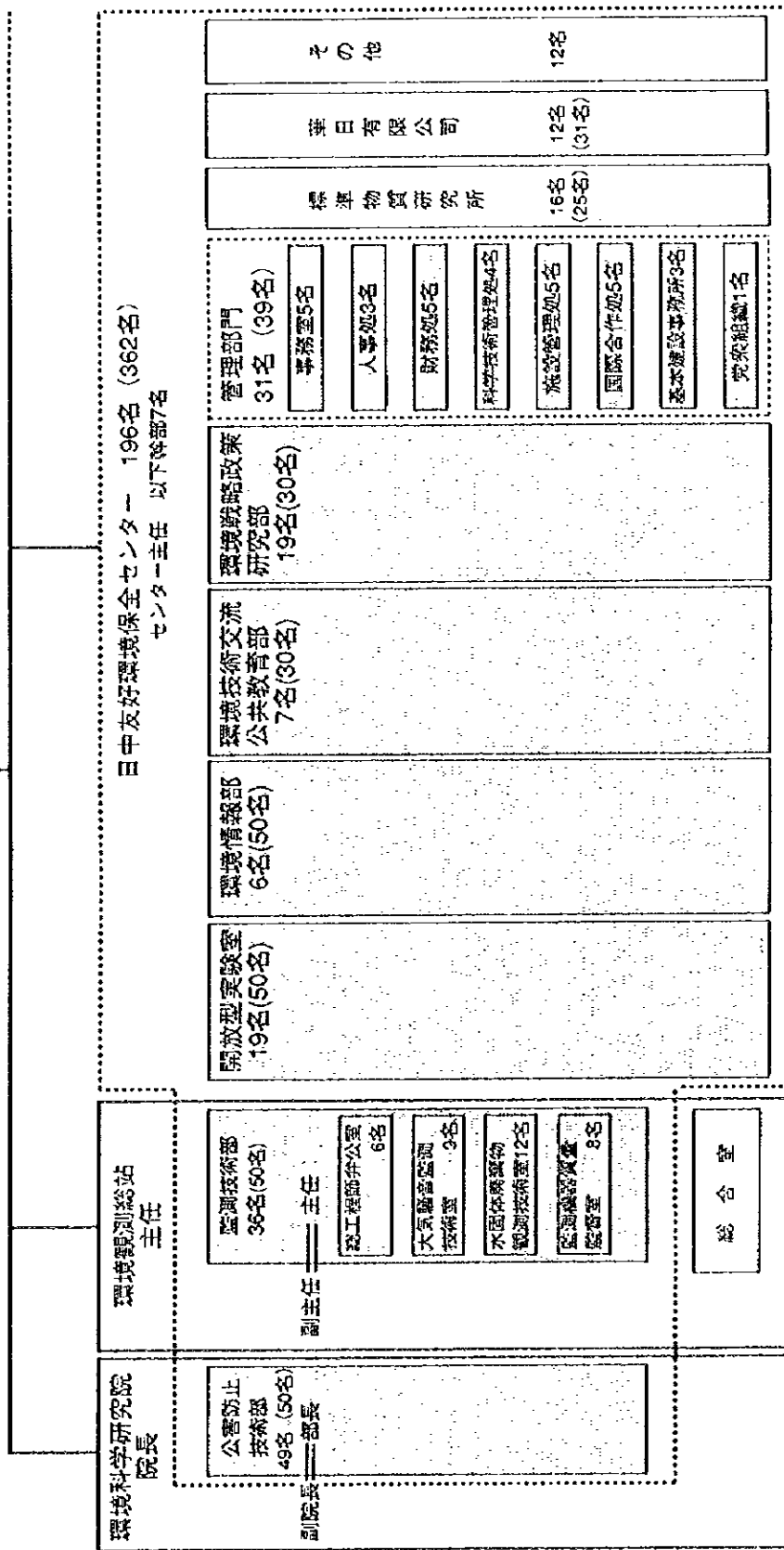
機 関	連絡先	郵便番号	TEL.
瀋陽市環境監視測定ステーション	瀋陽市瀋河区文芸路4号	110015	3846524
大連市環境監視測定ステーション	大連市沙河口区連山街58号	116023	4761074
長春市環境監視測定ステーション	長春市衛崑路	130022	5380705
哈爾濱市環境監視測定中央ステーション	哈爾濱市道里通達街68号	150076	4601257
北京市環境監視測定センター	北京市車公庄西路14号	100044	68459221
天津市環境監視測定センター	天津市南開区復康路19号	300191	3362563
上海市環境監視測定センター	上海市南丹路1号	200030	64395930
南京市環境監視測定中央ステーション	南京市虎踞路175号	210013	3717805
済南市環境監視測定ステーション	済南市山大路183号	250014	8937497
青島市環境監視測定ステーション	青島市延安一路39号	266003	2865111
杭州市環境監視測定ステーション	杭州市保叔路48号	310007	5119169
厦門市環境監視測定ステーション	厦門市湖濱南路56号	361004	2024424
寧波市環境監視測定ステーション	寧波市宝善路105号	315010	7121280
広州市環境監視測定中央ステーション	広州市吉祥路95号	510030	83333848
深 市環境監視測定ステーション	深 市紅宝路南村95号	518001	5593262
武漢市環境監視測定中央ステーション	武漢市漢口新華下路12号	430015	5768082
長沙市環境保護監視測定ステーション	長沙市東区解放路6号	410001	2297519
鄭州市環境保護中央ステーション	鄭州市中原西路71号	450007	7971057
珠海市環境保護監視測定ステーション	珠海市香州海濱北路新光里1-1号	519000	2222623
南寧市環境監視測定ステーション	南寧市民主路45号	530012	228826
桂林市環境監視測定ステーション	桂林市中山南路228号	541002	332533
貴陽市環境監視測定ステーション	貴陽市青雲路275号	550002	26575
海口市環境監視測定ステーション	海口市龍華路34号	570005	6772572
成都市環境監視測定中央ステーション	成都市百花東路環保大樓	610071	7771681
重慶市環境科学研究監視測定ステーション	重慶市江北区嘉陵一村37号	630020	7850069
昆明市環境監視測定中央ステーション	昆明市新闡路51号附1号	650032	4145671
西安市環境監視測定中央ステーション	西安市友誼東路48号	710054	5265019
蘭州市環境監視測定ステーション	蘭州市張家園16号	730000	29591
銀川市環境監視測定中央ステーション	銀川市鳳凰南街南9号	750001	5043853
烏魯木齊市環境監視測定中央ステーション	烏魯木齊市北芸公園街51号	830000	413171
西寧市環境監視測定ステーション	西寧市海宴路28号	310008	5154873
呼和浩特市環境監視測定ステーション	呼和浩特市西龍王廟渠府街	010010	315762
石家荘市環境保護監視測定ステーション	石家荘市体育南大街槐嶺路	050021	5014633
秦皇島市環境保護監視測定ステーション	秦皇島市迎賓路	066600	663394
太原市環境保護監視測定ステーション	太原市桃園三巷	030002	4040049

機 関	連 絡 先	郵便番号	TEL
南通市環境監視測定中央ステーション	南通市青年中路79号	226001	516050
蘇州市環境監視測定中央ステーション	蘇州市三香路14号	215004	8290406
連雲港市環境保護監視測定ステーション	連雲港市新浦海昌路南首	222001	414296
合肥市環境監視測定ステーション	合肥市西門外三里庵	230031	2657607
煙台市環境監視測定中央ステーション	煙台市芝 区青年南路118 号	264000	243168
温州市環境監視測定ステーション	温州市黎明西路10弄12号	325003	8336636
南昌市環境監視測定ステーション	南昌市站前西路65号	330002	226862
湛江市環境保護監視測定ステーション	湛江市赤坎区南橋南路16号	524043	3332457
汕頭市環境保護監視測定ステーション	汕頭市長平路中段	515041	8321385
北海市環境監視測定ステーション	北海市	536090	334025

日中友好環境保全センター組織概念図（社会開発協力部作成）

中国環境保護局

97年2月



※人数は97年1月現在の配置数。()内は定員

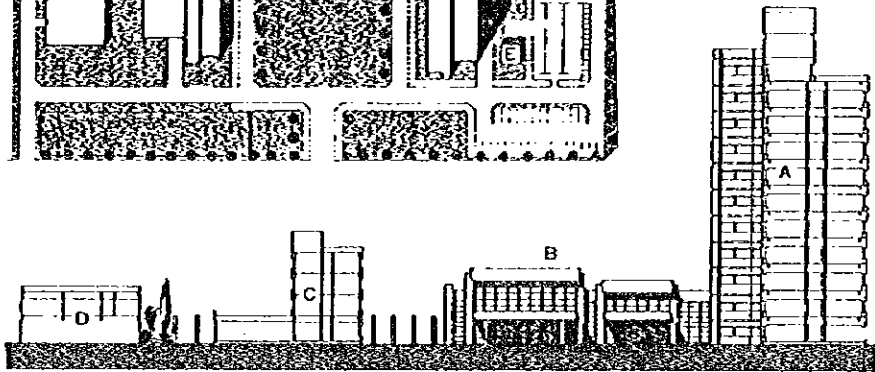
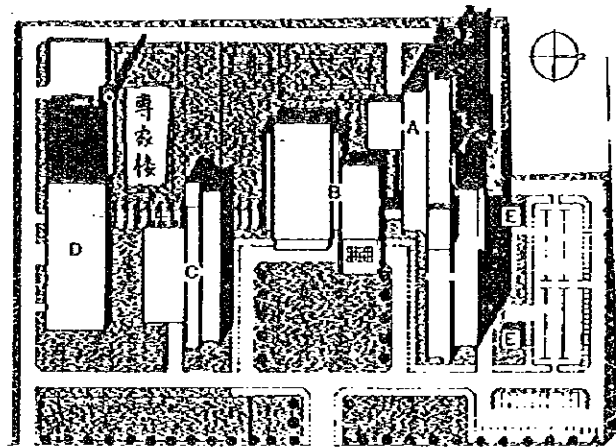
※幹部クラスに若干の兼務があるため、各部の合計は196名にはならない。

※本組織図は、中国側からの聞きとり情報をもとに、あくまで組織の実態をまとめたものである。

9. センター建物配置図

中日友好环境保护中心 中心本部

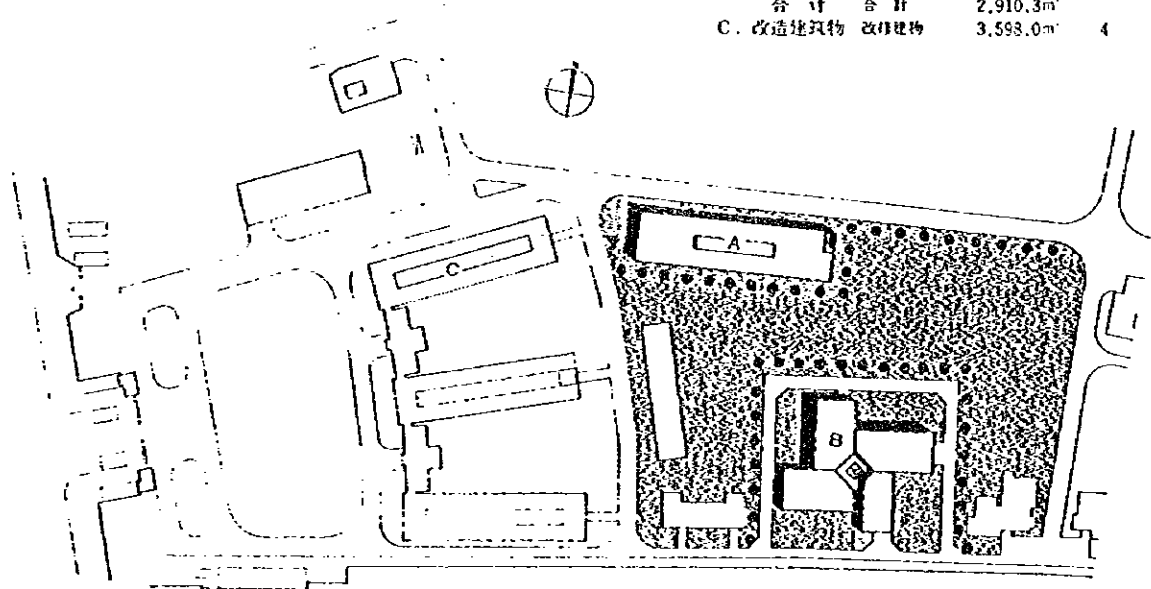
北京市朝阳区北四环路慧忠庵村 约2.5ha



中心本部楼面面积	センター本部床面積	楼层数	层数
A. 主 楼	本楼	16,873.2m ²	11
B. 大会议厅楼	讲演楼	1,713.5m ²	2
C. 食堂宿舍楼	食堂-宿舍楼	2,473.1m ²	4
D. 能源维修楼	エネルギー维修楼	2,232.4m ²	2
E. 其 它	その他	118.0m ²	1
合 计	合 計	23,410.2m ²	

中日友好环境保护中心 公害防治技术部

北京市安外北苑 中国环境科学研究院内 约1.4ha



公害防治技术部楼面面积	公害防止技術部床面積	层数	层数
A. 精密实验楼	精密実験楼	1,864.4m ²	2
B. 模拟实验楼	模擬実験楼	1,045.9m ²	1
合 计	合 計	2,910.3m ²	
C. 改造建筑物	改修建物	3,593.0m ²	4

10. センター本部建物内各機関配置図

センター本部 各 機 関 配 置 図

1997年1月24日現在

階	東	西	備考
11	(機 械 室)	中華環境保護基金会 三凌環境保護技術研究所	
10	国家環境保護局環境管理体系審査中心	国家環境保護局環境管理体系審査中心	
9	国家環境保護局標準物質研究所	センター環境戦略及び政策研究部 【国家環境保護局環境及び経済政策研究中心】	
8	センター標準物質研究所 【国家環境保護局標準物質研究所】	センター環境情報部 【国家環境保護局環境情報中心】	
7	センター環境観測技術部大気騒音観測技術室 【中国環境観測総站】	図書室 中国環境保全観測総站（会議室）	
6	中国環境観測総站	電話交換機 印刷室 センター管理部門	
5	中国環境観測総站	センター管理部門 （国際合作処、科学技術処、施設管理処、人事処） センター外国人専門家執務室（日本専門家組）	
4	センター環境観測技術部水固体廃棄物観測技術室 【中国環境観測総站】	センター管理部門 （主任、副主任、総工程師、弁公室、財務処）	
3	センター開放実験室 【国家環境分析測定中心】	センター環境技術交流及び公共教育部 （事務室、教室） 【国家環境保護局宣伝教育中心】	
2	センター開放実験室 【国家環境分析測定中心】	センター環境技術交流及び公共教育部 （編集室、AVライブラリー、機材室） 【国家環境保護局宣伝教育中心】 センター開放実験室廃棄物輸入登録管理センター 【国家環境保護局廃棄物輸入登録管理センター】	
1	センター環境観測技術部観測計器品質監督室 【中国環境観測総站】	センター環境技術交流及び公共教育部 （スタジオ、機材室） 【国家環境保護局宣伝教育中心】 文書保管室	

※中国側からの情報をもとにあくまで実態をとりまとめたものである。

11. 日中友好環境保全センター発 国家環境保護局宛文書
『対APEC開放行動案に関する伺』1996年12月5日付

【訳文】

1996年12月5日

国家環境保護局 御中

中日友好環境保護中心公文書

中日環〔1996〕062号

署名發送者：張坤

対APEC開放行動案に関する伺

江沢民主席は、11月25日、フィリピン国スピークにおけるAPECの第四回各国首脳非公式会議において発言し、経済面の技術協力と環境保全の重要性を強調し、中日友好環境保護中心をAPECに対して開放することを表明した。江主席は、「私は環境保全に関する国際協力を、来年のカナダAPEC会議での重点討議テーマの一つとすることに賛成する。この領域の国際協力を確実に推進するため、中国としては、北京に設立されている先端施設を有する環境保護中心をAPECメンバー国が人材養成、シンポジウム、情報交流、共同研究及び開発を行う場所として、開放することをこの場で表明したい。

江沢民主席の発言の中で「北京に設立されている先端技術を有する環境保護中心」というのは、すなわち「中日友好環境保護中心（以下〔中日センター〕称する）」を指している。中日センターは、環境に関する科学研究、情報管理と交換、技術研修及び国際会議開催等に供する整備された施設を有し、国際環境協力の優れた物質的条件を備えている。江総書記が、当センターの開放を提起したことは、わが国の環境保全事業に対する重視と関心を示すとともに、環境外交が益々突出してきている今日の国際情勢に適応した戦略的対応措置でもある。我々は、断固たる決意を持って江主席の指示を定着させ、層倍の努力を注ぎ、着実に業務を行い、中日センターをAPECに開放する環境保全センターとして建設し、わが国の環境保全に関する対外交渉及び国際協力の重要な窓口としなければならない。

江主席の発言精神を定着させるため、積極的措置をとって、APECメンバー国との連繫を構築し、できるだけ早くAPECメンバー国に対する開放を実現させるべく、中日センターの検討会議を経、以下のような行動案をとる計画である。

一、協力分野と方法の公表

中日センターがAPECとの環境協力可能な分野

1. アジア・太平洋地区の地域的環境問題及びグローバルな環境問題についての研究を行い、温室効果気体の排出抑制と酸性雨に対する対策及び技術を交流する。
2. 汚染防止に関する先端的科学技術面の研究協力を行い、清潔な生産とISO 14000行動の経験及び技術を交流、推進する。
3. 持続可能な発展戦略についての研究を行い、持続的発展の可能な都市化の経験を交流する。これには、生産方式と消費方式の転換、都市計画における環境評価及び区域管理等を含む。
4. 持続的発展の可能な農業について研究を行い、生態系農業の経験を交流する。これには、指標体系の管理、経済政策、モデル事業等を含む。
5. 経済と環境の係りについて政策研究を行い、環境経済政策、環境管理面の手法と経験を交流する。

中日センターは、現在上述分野の研究業務を行っている。中日センターは、これらの分野及びその他の分野でAPECとの協力を強めたいと願っている。上述分野の協力方法は、次の通りである。

1. 中日センターの有する施設を基礎とし、地域環境問題または汚染防止についての研究協力を行い、環境に関する応用技術を共同開発する。
2. APECの環境会議を開催、またはそれに参加する。地域環境問題への対策を検討し、持続的発展の可能な戦略に関する実施経験を交流する。
3. APECメンバー国間で環境管理職員及び技術職員をお互いに派遣し、環境管理の経験及び技術を交流する。
4. 環境情報データベースを構築し、環境に関する情報、資料を交換する。
5. 環境保全に関する視聴覚番組、刊行物及び教材を作成し、キャンペーンを行い、多様な形式の研修活動等を行う。

来年(1997年)初頭、APEC各国の環境長官或は高官の会議において、上述の協力分野及び具体的な項目を公表または紹介し、それと同時に、国家環境保護局医薬合作司或はその他のルートを通じて、APECメンバー国に中日センター及びセンターが協力できる項目について理解してもらうことを提言する。

二. 国際シンポジウムの開催

APECメンバー国に中日センターにおける会議や活動に参加してもらうことは、中日センターに対する最も直接的な理解であり、APECメンバー国に対して中日センターを開放することの最も実的な行動である。従ってAPECに開放する初めての国際シンポジウムのテーマを、「アジア・太平洋地域の持続的発展の可能な都市化問題に関するシンポジウム」とする事を提言する（会議草案、別紙参照）。

その他、政策研究中心、分析測定中心は、APECメンバー国といくつかの環境研究協力プロジェクトに積極的に取り組む姿勢であり、また広報宣伝中心は、GLOBEなどの多様なキャンペーンを展開したいと考えている。

三. 関連機関との連結の強化

進路を切り開き、相互関係を明らかにするために、中日センターは、APECシンガポール事務局とUNEPアジア・太平洋地区事務所、UNDP北京駐在事務所等の国際組織事務局と連絡をとる必要がある。中日センターに関する資料を送付して、中日センターへの理解を求め一方、緊密な結びつきを通じて友情を構築し、彼らの支援を得よう努める。

四. 『中国亞太経済合作組織環境保護中心（中国APEC環境保全センター）』の名称を使用することを提言する。

中日友好環境保護中心は、中日両国政府の協力によって建設され、中日双方の協議を経て、「中日友好環境保護中心」と命名されており、この名称の変更はすべきではない。しかし、APECメンバー国及びその他の国に向けてセンターを開放しようとするのであれば、不便さと制限されるところが出てくる。先般、外交部（外務省に相当）と協議した際に出された意見によれば、中日センターに「中国APEC環境保護中心」というもう一枚の表札を新たに掛けるようにしたらどうかとのことであつた。中国語と英語を機関名称の中で混用できないのであれば、もう一枚の表札は、「中国亞太経済合作組織環境保護中心」という名称を使用することができると考えられる。（表札に関しては、別途成文して国家環境保護局へ報告済）。

五. 職員の補充強化

APECへの開放に対応するためには、中日センター国際合作処（国際協力処）の業務能力を強化する必要があり、中日センターの総定員の中から、三名の職員を国際合作処に異動させ、APEC業務担当とする予定であり、それでも、万不足であれば、専門職員を外部から採用する事とする。

六. 多方面から活動経費を捻出

APECメンバー国へ開放し、人材養成、研究協力と開発、環境問題シンポジウム、情報技術交流等、その実施面においては、それぞれの活動経費が不可欠である。それらの経費は、以下の数方面から手当てするよう積極的な努力を注ぐ。

1. 協力メンバー国からのプロジェクト経費或は資金援助
2. 国際関連機関の支持
3. 日本国の環境技術協力特定テーマ予算或はその他の資金
4. 国内科学研究テーマ予算
5. その他

立ち上げに際しては、会議の開催や活動等、起動費用が必要であり、それらを国の関連機関から立ち上げ経費として交付されることが必要である。相見積では80万元が予想される。

付属書類：アジア・太平洋地域の持続的発展の可能な都市化問題に関するシンポジウム
草案

主題詞：アジア・太平洋 組織 開放 案 伺

中日友好環境保全センター

1996年12月5日発送

タイピスト 劉建国

校正：葉漫紅

附件

アジア・太平洋地域の持続的発展の可能な都市化問題に関するシンポジウム草案

1. 要旨

持続的発展の可能な都市化問題は、APECマニラ首脳会議において、重要な検討課題の一つとしてとりあげられた。わが国は経済成長が速く、都市人口は集中しており、都市環境の総合的整備を行う上での経験とモデルを有する。このテーマで、国際シンポジウムを開催することは、APECメンバー国の関心を引き、会議の成功が期待できる。この会議を通じて、APECメンバー国にわが国の都市環境保全事業を理解してもらうことができ、中日センターの対APECメンバー国開放の基礎を構築することができる。

2. 主催機関：中日友好環境保全センター

支援機関：国家環境保護局

3. 期間：1997年APECカナダ会議の前に開催、会期4日。

4. 場所：中国亞太経済合作組織環境保護中心（中日友好環境保護中心）国際会議ホール

5. 参加者（参加機関及び人数）：APECの主要メンバー国代表及び北京駐在の各国際機関の代表を招待する。外国人賓客40名、国内代表10名。

6. スケジュール：1日目－受付、予備会議

2日目－会議

3日目－都市見学

4日目－帰国

7. 会議費用について

先進国代表の国際旅費、宿泊料金は自弁、その他の接待費用は会議の主催者が負担する。会議費用の予算は40万元である。

【訳者：何錫 高橋公一訂】

JICA